

# 山田みやこの活動報告

令和4年3月11日(金)

## 「誰も孤立させない社会をつくる」講演会に参加(オンライン)

主催 栃木県子ども・若者地域支援ネットワーク

講師 奥田 知志氏(NPO法人抱撲 理事長・)東八幡キリスト教会牧師

奥田氏はまず最初にキリスト教思想家・文学者でもある内村鑑三氏を紹介。

「国民の精神が失せた時に国が滅びる」

自分だけ良ければ良い、相手を否定

→ロシアのウクライナ侵略にもつながる

マララ・ユスフザイさん(パキスタン出身の女性でタリバンによる恐怖政治や女性の権利を奪う圧政を批判し、教育の重要性や平和の大切さを世界中に向けて訴え、2014年ノーベル平和賞を受賞)を例にたとえ、自分が第一という“自分病”を否定した。

人間の脳は自分のことだけ考えることは一人分の脳しか使わない。多くの人と会い想いを分かち合えばその人数分の脳を使うことになる。

自分病→コロナ禍→自分だけでは立ち行かない(魂のキズとなる)。対人間援助により、みんなで生き残ることが平和の道になる。そこで困窮者支援を行う意味は「①貧しさ、さびしさ」の解決型支援、「②つながり続ける」ことを目指す伴走型支援。

社会的孤立の調査(2014年)OECD諸国の比較によると家族以外の人と交流のない人の割合ではアメリカ0.1%、イギリス5%、そしてなんと日本は15.3%となった。

2018年1月イギリスは「孤独問題担当大臣」新設

国家損失年間4.9兆円(320億ポンド)

孤独の健康被害→肥満、1日に15本喫煙するよりも有害

### ○孤立と孤独の違い

孤立→家族やコミュニティとはほとんど接触がない客観的な状態

孤独→仲間づきあいの欠如、喪失による好ましからざる感情(主観)

### ○ホームレス支援から見た2つの困窮

経済的困窮=ハウスレス

社会的困窮=ホームレス ※ハウスとホームは違う

ホームレス中学生

家があっても帰るところがない

誰からも心配されていない

社会的孤立が経済的困窮を招く

縁の切れ目が金の切れ目に

### ○伴走型支援の効果→物語の創造

物(現金・現物)を物語に変える→他者の存在

物に人が関わることで「物」が「物語」となる

社会保障とは「現金給付」「現物給付」が中心

〈ある母子家庭のケース〉

何を食べたいかは覚えていないが、誰と食べたかは忘れない

※伴走型支援は物を物語に変える支援、自立支援である。

The poster is for a lecture and workshop titled "誰も孤立させない社会をつくる" (Who doesn't isolate anyone, let's create a society). It features a yellow background with blue and red text. The main title is in large, bold blue characters. Below it, there's a red box that says "参加費 無料" (Participation fee: Free). The poster includes a diagram showing the relationship between family, company, and community, and how they can lead to isolation. It also lists the date and time: 2022.3.11 (Friday), with two sessions: 13:00-14:30 and 14:45-16:00. The location is Tochigi Youth Center. There is a QR code for registration and a photo of the speaker, Mr. Tomohisa Okuda. The bottom of the poster has contact information for the organizing network.